

校長先生が読んだ図書館の本 8月の巻

8月は平和について考えたい月。★印の本は戦争について考えさせられる本です。

★「おこりじぞう」 作：山口 勇子 絵：四国 五郎 新日本出版社

広島での経験をもとに書かれた物語。原爆投下されたときの様子、人々の苦しみ悲しみが、ありありと伝わりました。

★「えっちゃんの せんそう」 作：岸川 悦子 絵：狩野ふきこ 文芸堂

中国大陸で生まれ育った少女が敗戦で味わった苦悩。戦争の理不尽さ、非情さ、人間の温かさと怖さを感じました。

「先生のつうしんぼ」 作：宮川 ひろ 偕成社文庫

人間味のある担任の先生。素直な3年生のお話です。蚕を育てる話も出てきます。一つのみゆから何mの絹糸がとれるか知っていますか？びっくりです。

「100年後の水を守る—水ジャーナリストの20年—」 著：橋本 淳司 文研出版

水問題は人間の行動の問題。自分の行動が環境にどのような影響があるかを自覚しなければならないと感じました。

「ユタと不思議な仲間たち」 著：三浦 哲郎 新潮文庫

こんな座敷童なら、ぜひ遭ってみたい。なぜこの子たちは座敷童になったのか？悲しくも優しく、楽しいお話。

「ミカ！」 作：伊藤 たかみ 理論社

自分がどんどん大人に変わっていくときの気持ち。ミカに共感する5,6年生がいるかもしれません。

★「光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島」 作：朽木 祥 講談社

「よく知っていると思うことでも、本当は知らないことが多い」名言です。途中で涙が止まらなくなりました。

「ケルトの白馬」 作：ローズマリー・サトクリフ 訳：灰島 かり ほるぷ出版

イギリス、パークシャーの丘陵地帯に描かれた巨大な白馬の地上絵。短編ですが、サトクリフの珠玉の一冊です。

「科学と科学者のはなし 寺田寅彦エッセイ集」 編：池内 了 岩波少年文庫

夏目漱石とも親交のあった物理学者が、日常生活の体験に科学の法則があてはまることを易しく教えてくれます。

「たまごを持つように」 作：まほら 三桃 講談社

弓道部で悩みながらも成長していく中学生たち。弓道の奥深さを改めて知りました。